

(NSC ; 100-2313-B-002-033-MY3) の補助を受けたものである。また、Sophie Laplace 氏及び謝宜芳氏 (台湾大学) には作図に関してご協力をいただいた。ここに記して感謝いたします。

〔引用文献〕 1) Guan, B.T. *et al.* (2008) No initial size advantage for Japanese cedars in crowded stands. *For Ecol Manag.* 255 (3-4) : 1078-1084. 2) 篠原慶規ら (2013) 樹液流計測法を用いた林分蒸散量の計測—森林管理による蒸散量の変化を評価するために—。日本森林学会誌, 95 (6) : 321-331. 3) 柴田昌三 (2010) 竹資源の新たな有効利用のための竹林施業。森林科学 58 : 15-19. 4) 邱 析榮ら (2009) 台湾北部地区竹林資源分布及變遷之研究。中華林學季刊 42 (1) : 89-105. 5) 小野澤郁佳ら (2009) 樹液流計測のモウソウチクへの適

用：切り竹における吸水量と樹液流量の比較。日林誌 91 : 366-370. 6) Isagi, Y. *et al.* (1997) Net production and carbon cycling in a bamboo *Phyllostachys pubescens* stand. *Plant Ecol.* 130 : 41-52. 7) 清野嘉之ら (2009) 日本の竹林のバイオマス炭素蓄積量, 吸収量の算定手法の開発。森林総研 平成 21 年度版 研究成果選集, 4-5. 8) Katayama *et al.* (2009) Effect of stand structure on spatial variation in soil respiration in a Bornean tropical rainforest. *Agric. For. Meteorol.* 149 : 1666-1673. 9) 今治安弥ら (2013) モウソウチク・マダケの侵入がスギ・ヒノキ人工林の水分生理状態に及ぼす影響。日林誌 95 : 141-146. 10) Yu, G.R. *et al.* (2014) High carbon dioxide uptake by subtropical forest ecosystems in the East Asian monsoon region. *PNAS* doi/10.1073/pnas.1317065111.

図書紹介

高橋 進. 2014.

生物多様性と保護地域の国際関係—対立から共生へ



明石書店 239 ページ

ISBN-10 : 4750339857

ISBN-13 : 978-4750339856

本体 2,800 円+税

同書の著者、高橋進氏は、環境庁（現環境省）自然環境調査室長、JICA インドネシア生物多様性保全プロジェクトリーダー、国立環境研究所環境情報センター長など、生物多様性とその保全に対し行政官として長く関わった経験を持つ。現在は、共栄大学国際経営学部教授として、国際環境政策論（生物

多様性・保護地域）、環境教育論を専門に教育・研究に従事されている。同書は、著者がこれまでに執筆して論文や著作をとりまとめたもので、学術専門書としての内容も含みつつ大学生や一般の方にも理解できるよう、平易に解説するとともに、物語性をあわせもつものめざしたとのことである。

同書では、生物多様性の保全と利用をめぐる国際関係、また生物多様性保全を目的として設置された保護地域をめぐる国際関係と国内問題から、生物多様性に関する南北問題や国家政府と地域社会との対立について、さらに様々な立場の関係者による協働管理の変遷を踏まえ、今後の課題が論じられる。行政官としての経験によるものか、複雑な問題が順を追って整理される。ただし堅苦しいものになりがち、このような話題のそれぞれにおいて、著者が直接に関わった経験が合わせて述べられ、著者が撮影した写真が随所に挿入されているため、親しみやすいものになっている。特に、インドネシアの生物多様性保全と国立公園については、著者が JICA のプロジェクトリーダーをしていたころから現在にいたる四半世紀の変遷が感じられ、興味深かった。発展途上国の生物多様性保全に関心をもつ方に一読をお勧めしたい。

（藤間 剛）